

卒業生・修了生のみなさんへ

2020年3月25日

森本浩一

(2019年度 文学部長・文学研究科長)

みなさん、卒業・修了、おめでとうございます。

それぞれの研究・進路上の課題とこの数年間取り組んでこられた、みなさんのそのご努力に対して敬意を表します。東北大学文学部・文学研究科での様々な経験が、みなさんのこれからの職業活動や日常生活を実りあるものにする助けとなることを願っています。

さて、新型コロナウイルスの世界的拡散を受けて、今年度の卒業・修了関連行事はすべて中止となりました。みなさんと一緒に「区切り」となる祝賀イベントを行えないのは大変残念ですが、目下の厳しい状況を考えればいたしかたありません。現在進行中のパンデミックは、経済・社会に甚大なダメージを与えつつあり、私たちだれもがその影響をまぬがれられません。みなさんも不安と困惑を抱えていることと思いますが、いずれ事態は克服されるはずです。むしろ、自分も含めた人類が世界規模での「危機」とどのように向き合っていくかを自覚的に観察・記憶し、将来に向けての教訓にしていくことが大切です。

私たちは、いやおうなく大局的な危機に備えてゆかざるをえない時代に生きています。環境変動や災害のリスクがあるだけでなく、盲目的な経済競争と過酷な格差、前世紀をひきずる国家間対立、機能不全を起こした民主主義への大衆の不信など、人間由来の様々な困難が社会の未来を脅かしているからです。新型コロナは、グローバル化による人間活動の活発化をもたらす負の可能性も痛感させました。

「危機はわたしの属性である」(田村隆一)。危機は、私たちが実は常に直面しているはずの生存のあやうさを露呈させます。九年前の3.11がそうでした。震災は、単に安全・安心のために備えを万全にせよという経験的指示を与えただけではなく、より深く私たちの生存の「かたち」について熟考を強いた、と私は思います。

未来とは「まだない」ものです。そこで自分がどのようにありたいか、あるべきかを考え行動を選択してゆくのが、私たちの生です。重大な決断を迫られる時だけでなく、夕食のメニューを決めるような瞬間においてさえ、私たちはある特定の未来を選び、自らの行動をその方向へと導いているわけです。ですから、危機について考えることは、むしろ平穏な日常それ自体が内包している不確実性や、それに対する「身の処し方」について反省することだと言えます。

「まだない」ものへ向けての選択のおおもとにあるのは、自分自身の生存への関心であり、次の瞬間において「良く」ありたいという欲求です。この「良くある」こと、つまり幸福

(well-being)を論じることは、人文社会科学の根本課題のひとつです。もちろん、何が「良い」のかの判断は、主観的・客観的な様々なファクターに左右されます。情報と信念形成という巨大なテーマがそこにあります。それは、哲学や社会学に限らず人間の心や文化を探究する多くの分野が取り扱う問題です。特に、技術革新によってコミュニケーションの仕方が劇的に変化した現代においては、人が何を信じ、どう判断するかについて、俯瞰的かつ多角的に熟考することが求められます。

とはいえ現実には、十分な自己反省をするいとまもないまま、私たちは、いやおうなく当面の選択に直面し、差し当たり手許にある知識と資源を使って、決断し続けてゆかなくてはならないわけです。個々人の情報収集能力はきわめて貧弱で、得た情報を処理する思考過程も、しばしば情緒的な歪みを抱え、合理性の理路を見失います。結果として何が起こるかを予想し尽くすこともできません。ひとことで言えば、「良さ」の選択とは、複雑で予測困難な状況の中での一種の「賭け」のようなものです。

しかし逆に言えば、私たちは、ほかでもない自分自身の「良さ」に向けて、持てる資源を動員して賭けを打つ「自由」だけは常に所持しているわけです。たとえそれが限られた可能性の中からの選択でしかないとしても、選び取る自由を持つということは、とても貴重です。私たちは、「もう既がない」過去を記憶として蓄えています。ほかならぬ自分自身が見聞きし考えてきた経験を整理・活用することで、「まだない」ものへ向けての「自由」の行使は、より賢明で洗練されたものになってゆくでしょう。それが成熟と呼ばれるものです。

みなさんは、人文社会科学を学ぶことで、自分にとって、また人間一般にとって何が「良い」ことなのか、様々な角度から考えてきたはずですが、学んだ知識も大事ですが、そこで身についた自分流の思考パターンや、問題を発見し解決してゆく際の「勘」が、日々直面する選択の場面で、自らの「自由」をどう行使してゆくべきか、指し示してくれるに違いありません。ですから、「自由」を恐れることなく、自信をもって「まだない」ものの方へと進んでください。みなさんが、それぞれなりのやり方で成熟し、「良さ」日常を築いていかれることを、心から願っています。

息苦しい不穏な春になりました。しかしじきにまた次の景色が開けてきます。儀礼的な別れはなくとも、晴れ晴れとした気持ちで、次のステージへ踏み出してください。